

特定非営利活動法人 A SEED JAPAN

2019年度年次報告書

**Action for Solidarity, Equality,
Environment, and Development**



A SEED JAPAN は、 1991年9月にその歩みを始めました

mission

持続可能で公正な社会をつくるため、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会・経済システムを変えていきます。

1.環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因は経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2.青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます

私たちは、環境問題や社会的不公正について、またそれらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを、青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3.長期的視野を持って社会を変えていきます

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

沿革

◆国際キャンペーン時代（1991年～1992年）

1990年10月 世界約50ヵ国以上の青年環境団体が参加して「A SEED 国際キャンペーン」が欧米の26ヶ国でスタート。
1992年6月 リオデジャネイロで開かれた150ヶ国以上の首脳が参加した地球サミット（国連環境開発会議）およびNGOグローバルフォーラム」（ブラジル）に代表を派遣。

◆任意団体A SEED JAPAN時代（1992年7月～2014年2月）

1995年4月 Youth Action for APECキャンペーン発足。
1997年12月 気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）にて、メディアアピール活動を展開。
1998年1月 A SEED Europeと連携して「ウクライナ原発反対のDICEキャンペーン」を展開。
1998年7月 FUJI ROCK FESTIVALでごみゼロナビゲーションが環境対策事業を開始。
2002年8月 国連持続可能な開発会議（南アフリカ・ヨハネスブルク）へ7名を派遣。
2007年3月 世界水フォーラム（大阪・京都・滋賀）にてアクションを実施。
2007年5月 アジア開発銀行（ADB）年次総会において、化石燃料から自然エネルギーへの転換を求めるパフォーマンスを実施。

2008年3月 Japan Youth G8 Projectと共催で「持続可能な社会のための日本青年サミット/Japan Youth Forum Toward G8 Summit ~for Sustainable Society~」を開催。

2008年7月 北海道・洞爺湖で開催された洞爺湖G8サミット直前に、他のユース団体と世界青年フォーラムを開催し、政府担当者とのダイアログを実施。

2010年10月 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）へ活動メンバー60名を派遣し、アクション、提言活動を実施
「COP10重要論点フォーラム～これだけは譲れない！ユースの視点」を開催。

2012年6月 国連持続可能な開発会議（リオ+20）へ活動メンバー3名を派遣。

2013年6月 アフリカ会議開発会議TICAD5（横浜）に有志メンバーを派遣。

◆NPO法人A SEED JAPAN時代

2014年2月 ごみゼロナビゲーション事業 分離・独立

2014年4月 法人格取得

2015年 アースデイ東京2015/2016事務局を担う。フェア・ファイナンス・ガイド実行委員団体としてキャンペーンを実施

代表より

2020年度は、A SEED JAPANとしてのミッションや活動のあり方を立ち止まって見直す1年にしたいと思っています。コロナ禍で社会情勢が大きく変化していますが、多くの方がそうした変化の中で、生き方や働き方について考える契機にもなっているように思います。2011年前後にも、なんとなく感じ取っていた違和感が、決して間違いではなかったのだということが明らかになったと思います。それは、当たり前として送っている日常というものが、非常に微妙なバランスの中で、綱渡りしながらも成り立っている日常なのだということ、震災直後にラジオが流れた職場や電気が消えた電車、日常の中で見る光景が、当たり前だと思っていたことが当たり前ではないのだということ、を突きつけられたことを今でも覚えています。環境問題や社会問題は複雑化し、NGO・NPOとして求められることはより専門化している中で、A SEED JAPANとして、どのような場や機会をつくり、どのようなメッセージを発信していくか。活動体としての、これまでのあり方ややり方を、今一度吟味して、2021年以降の社会、世界に対して、どういった存在としてあるか。この一年をかけて多くの方と話し合う機会を持ちながら、考え見つけていきたいと思っています。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2020年度A SEED JAPAN代表 濱田恒太郎

2019年度 組織概要

役員・事務局スタッフ一覧

役員名	役職	担当部門
濱田恒太郎	代表/理事	エネルギー政策チーム/パワーシフトキャンペーン
石原遼平	理事/事務局長	プロジェクト全体統括担当
西島香織	理事/事務局スタッフ	核ごみプロセスをフェアに！プロジェクト
田川道子	理事	エコ貯金プロジェクト/Fair Finance Guide Japan
江口健介	理事	組織基盤担当
三本裕子	理事	組織基盤担当
矢口拓也	監事	-
小川暁平	事務局スタッフ	総務
露木佑亮	事務局スタッフ	総務

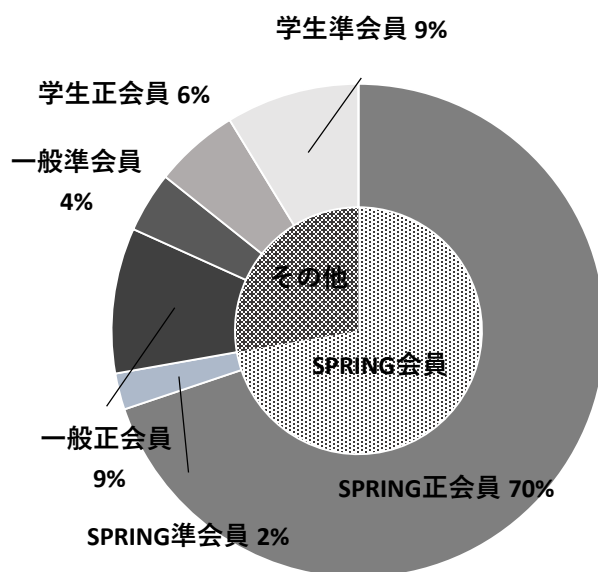
2019年度会員・サポーター内訳

会員種別	会員数
一般正会員（うちSPRING会員 88名）	100名
一般準会員（うちSPRING会員 3名）	8名
学生正会員	7名
学生準会員	11名
合計会員数	126名

※SPRING会員とは、長期的にA SEED JAPANを応援してくださる方のための、口座から自動引き落としを行う会員寄付制度の対象会員のことです。

マンスリーサポーター数	8名
-------------	----

【会員内訳】



プロジェクト紹介

エネルギー政策チーム

二酸化炭素の排出などで問題視されている化石燃料由来のエネルギー。それに代わる再生可能エネルギーを誰でも選択し、利用できる持続可能な社会を目指します。
エネルギーを切り口に、市民として、身近な市区町村単位での地域コミュニティの自治にかかわれる、参加型社会をも創っていきます。

2019年度の成果

・アースデイ東京2019に出展し、新電力会社、環境NGOと共同出展し、「パワーシフト・気候変動エリア」をコーディネートしました。出展においては、パワーシフトキャンペーンについて普及啓発を行いました。そして、市民が再エネの電力会社に変更した金額や人数を積み上げていく「1億円キャンペーン」に合わせて、107名のパワーシフト宣言者を獲得することが出来ました。

ブース内でのトークも開催し、パワーシフトキャンペーンや、2018年度に実施した石炭火力発電所現地調査についてプレゼンしました。

・11月10日にFridays For Future Tokyoと共催の「気候非常事態宣言」をテーマにしたセミナーを開催し、67名が参加しました。

・2月11日にパワーシフトキャンペーン運営委員会との共催で「パワーシフトシンポジウム」を開催しました。そのセミナーには、A SEED JAPANのメンバーも登壇し、昨年で開催されたCOP25について講演しました。



アースデイ東京2019の出展の様子

2019年度のアクション

4/20～21：アースデイ東京2019に環境NGO、新電力会社、パタゴニアと「パワーシフト・気候変動エリア」を共同出展しました。

9/20：賛同団体として「グローバル気候マーチ」を運営しました。

10～11月：東京都に気候非常事態宣言を求める署名活動を、Fridays For Futureと協力して実施しました。

11/29：第2回「グローバル気候マーチ」に運営側として参加しました。

2/25～27：長崎県壱岐市に気候非常事態宣言および現地の再生可能エネルギー事情について現地調査を実施しました。

その調査報告書をホームページ、Facebookに掲載しました（Facebookでも別添調査報告として、一部公開）。

2019年度は、Fridays For Futureと共同の活動が多く、再エネ普及、気候変動へのアクションを積極的にできたと感じました。石炭火力発電は未だに世界各地で稼働し続けています。それにより、気候変動は悪化し、気温は上昇し、自然災害が増えています。それらを防ぐためにも、石炭火力を減らし、多くの人々が再エネにシフトしていくことがこれからの社会を変えていくこととなります。



気候非常事態宣言セミナー開催の様子

気候非常事態宣言都市・壱岐市現地調査

調査概要

現在、世界中で気候変動問題に対する関心が高まっています。9月にはFridays For Future Tokyoが東京都へ気候非常事態宣言（CED）を求める請願書を提出し、11月29日の審議では、長時間におよぶ審議の結果、不採択とはならず「継続審査」となりました。この結果の背景には様々な事情が想像できませんが、その1つには同宣言をすることの意味や、宣言後の具体的な施策などの提案の欠如があったことが伝えられています。そこで、日本で初めてCEDを行なった壱岐市にて現地調査を実施し、同市での取り組みや施策などを見聞し、東京都に対してもより踏み込んだ提案をできる様にすることが今回の調査の目的です。

主な調査内容は、壱岐市の再生可能エネルギー事業について九州電力、壱岐風力発電所、壱岐ソーラーパークを視察し、壱岐市の白川市長にインタビュー調査を行いました。さらに、トラフグ養殖場、一支国博物館、テレワークセンターを視察し、壱岐市の地方創生事業について調査を行いました。

調査参加者

石原遼平（事務局長）	奥山杏子（ASJ会員）
小川暁平（事務局スタッフ）	水上志乃（ASJインターン）
露木佑亮（事務局スタッフ）	宮崎紗矢香（ASJ会員）



壱岐市長とのインタビュー調査の様子①



壱岐市長とのインタビュー調査の様子②

調査結果

<再生可能エネルギー>

壱岐市は、CEDをする前から太陽光、風力発電に取り組んでおり、現在では、島内電力量の約1割を賅っているそうです。現地でのお話では、実際には電力量を増やすことができるのですが、理由として、九州本土との系統連携が実現できていないことです。系統連携することができれば、太陽光、風力の余剰電力を本土に売電することができ、壱岐市の再エネ事業が本領発揮されると考えられます。国内においても、再エネの普及率は、16%程度と低く、2030年までの目標比率も22~24%と消極的な数値になっています。再エネは、これからの地産地消なものになっていき、壱岐市の再エネ事業は発展を遂げると感じました。

壱岐市は、発電所の付近の住民とコミュニケーションをしっかりと取っています。夜間は運行停止するように、地域住民に十分な配慮をしています。東京都の各発電所も都民と交流を図り、都民と環境への配慮を重視すべきだと感じました。そして、都内の再エネ普及率を上げるためにも火力発電から再エネにシフトすることが気候変動対策にもなり、これからの東京も壱岐市のように地産地消の再エネ事業をさらに発展させていくべきだと考えます。

<地方創生>

壱岐市では、長時間労働、通勤時間のストレスなどを軽減させるためにテレワークスタジオを設け、いつもと違う場所での仕事をする「ワーケーション」を実行しています。東京都でもテレワークをよりいっそう推奨していくことで、新型コロナウイルスの感染防止や社会的ストレス軽減にも繋がります。さらに、壱岐市のトラフグ養殖場は陸上養殖を行っており、気候変動により藻場が消失しているなかでは、適応策といわれています。陸上養殖のおかげで、成長率も上がり、売り上げも好調となっています。東京都も陸上養殖を行うことで気候変動による食料危機も緩和すると考えます。

壱岐市のNPOチーム防人は、地域住民や島外の学生と共に海岸漂着物清掃活動をするなどしています。隣国の中国の学生たちと共に講習事業として清掃活動も行っています。都内でも、清掃活動は行われていますが、それでも、街にはゴミが溢れています。防人のように、学生や街の人を巻き込んで清掃活動をするのが今の東京都には必要だと感じました。



九州電力見学の様子

エコ貯金プロジェクト

持続可能でフェアな社会づくりに貢献する金融システムの実現を目指す本プロジェクト。Fair Finance Guide Japanにおいて日本の多数の金融機関が90%以上のスコアを獲得し、国内金融機関から環境・社会問題へのお金の流れがほぼ絶たれた状態を実現します。そのために、日本の金融経済教育の仕組みの中にFair Finance Guide Japanの考え方を導入するべく出前授業に行ったり、金融機関へのメッセージ募集したりしています。

2019年度の成果

- ・アースデイ東京2019では、東京CPB、オイコクレジットジャパンと「エコ金融エリア」を共同出展し、銀行へのメッセージを54件集めることが出来ました。
- ・グローバルフェスタ2019でも、オイコクレジットジャパンと共同出展を行い、サンゴ礁と石炭火力発電の関係性について講演しました。メッセージ数は31件でした。
- ・11月には、PARCとFoE Japanとの共催でFair Finance Guide Japanセミナーを2回開催しました。1回目は、住友金属鉱山と環境問題をテーマにし、2回目は、インドネシアの石炭火力発電の投融資問題についてのセミナーを開催しました。
- ・出前講義では、名古屋学院大学で講義を行い、メッセージを32件集めることが出来ました。



グローバルフェスタ2019の様子

2019年度のアクション



G20ユースサミットの様子

- 4/20～21：アースデイ東京2019「エコ金融エリア」出展。
- 6/22～23：神戸外国語大学で開催されたG20ユースサミットに出展および分科会に登壇。
- 9/21：「社会に優しいお金の預け方 ～賢い市民の家計ポートフォリオとは？～」を開催。セミナーの中で、お金と社会問題のつながりや投資の大切さについて各登壇者からお話しいただきました。
- 9/29～30：グローバルフェスタ2019にオイコクレジットジャパンと共同出展。
- 10/10：明治学院大学法学部向け授業「持続可能な社会に向けて」出前講義を実施。
- 11/25：名古屋学院大学にFair Finance Guide Japanに関する出前講義を実施。

チームリーダー・田川よりひと言

2019年度は、お金に対する人々の意識の変化を感じた1年でした。ESG投資やダイベストメントなどの用語をニュースや新聞等で見かける頻度は高まりましたし、年金2000万円問題は、個人がお金と真剣に向き合うきっかけになった出来事でした。

エコ貯金プロジェクトでは、例年通りアースデイ東京、グローバルフェスタでのブース出展、個人の資産運用に視点を置いたセミナーを企画、多くの方に共感を頂きました。

預金をする、投資をする、モノやサービスを買うなど、私たちは日々お金と共に生活します。その際、お金の流れる先をより良いものにするを考えて行動することで、私たちの住む社会もより良いものになっていくはず。私たち一人一人にできることは小さなことかもしれませんが、社会を変えるのは、一人一人の行動の積み重ねに他なりません。

「お金」＝「不安」に結び付きやすい時世ですが、このような状況だからこそ、私たちは「お金」は何のためにあるのか、地球の恩恵を受けて生きる私たちにはどのような選択をするべきかを、今改めて考える必要があるのではないのでしょうか。

最後に、私はエコ貯金プロジェクトの理事を2016年から務めてきましたが、活動と仕事との両立が困難になったこと、また継続して活動するメンバーが不足したことから、2019年度をもってプロジェクトを終了いたしました。近年多くの金融機関は、SDGsやESGの流れの中で方向性が変わりつつありますが、エコ貯金プロジェクトがブース出展やセミナー等で社会性への配慮を呼びかけ続けたことは、その変化の一端を担っていたのではないかと考えています。今まで応援して頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。

核ごみプロセスをフェアに！プロジェクト

原子力発電所の通常運転および事故によって生じた放射性廃棄物の最終処分・管理方法について、公正で民主的な決め方を確立します。また、都市と地方の連帯によって、第一次産業と再生可能エネルギーを中心とした、自然と共生できる地域をつくります。

2019年度の成果

<本年度のプロジェクトの概要>日本は、1961年以来「核燃料サイクル」計画を推進してきました。現在、長年審議されている再処理工場の新規規制基準審査の行方が注目されています。事実上、再処理工場が稼働していない今だからこそ、人々の闘いの記録を収め、政策立案者や若者を含めた多くの市民に対し、エネルギー政策を問い直すきっかけを作るため、計画に翻弄されてきた地域（青森県・佐賀県・福井県）を取材し、ドキュメンタリー映画を制作します。

<設定目標とその達成状況について>

目標：作品を通じて、立地地域や翻弄されてきた人々の歴史、苦悩に触れてもらう

→作品ができていないため到達していませんが、クラウドファンディング（以下CF）の実施により本プロジェクトを知っていただき、新たな層に対して働きかけ、関心をもっていただくことができました。結果、107名から1,172,000円のご寄付に繋がりました。



→CFの支援者（パトロン）限定で、取材のレポートや取材記などを配信。「核燃料サイクル」の問題点の提示だけでなく、歴史を築いてきた人達との出会いやその方々の闘いのエピソードや取組などを紹介したという点では、歴史や苦悩に触れていただくことができたと考えています。

2019年度のアクション

5/31 【取材】「止めよう核燃料サイクル政策 省庁vs議員と市民の院内集会」

6/23 【学習】永野浩二さん／玄海原発プルサーマル裁判の会事務局長よりレクチャー

7/10-12 【取材】玄海原発3号機再稼働抗告審判決／玄海原発プルサーマル裁判の会

7/12 【学習・撮影】CNIC連続学習会「再処理工場の安全性を問う」参加浅石弁護士

7/31-8/4 【取材】核のごみ問題を考えるほろのべ全国交流会

8/9 プロジェクトキックオフイベント開催

8/13 【取材】永野浩二さん／玄海原発プルサーマル裁判の会事務局長@佐賀

8/14 【取材】佐賀県庁要請行動取材、CF開始

10/6 CFキャンペーンイベント 「核燃料サイクル計画」映画制作プロジェクトチームが贈る「そもそも再処理、再稼働、核燃料サイクルって何？ 今私たちが「核燃料サイクル計画」に注目するワケ」開催

10/17 CF終了。支援者数＝107名／支援額＝1,172,000円／目標達成率＝58%

「活動報告」にて支援者へ随時取材状況など配信（リターンの一つのため基本的に閲覧はパトロン限定）

<https://camp-fire.jp/projects/177158/activities>

その他、青森に4回、福井に1回、佐賀に2回訪問し、取材を行いました。

青森では6名、佐賀で6名ほどお話を伺いました。

チームリーダー・西島よりひと言

まずは、この度クラウドファンディングにご協力いただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。必ず完成させますので今後ご注目ください。

この映画制作プロジェクトに至る経緯は、同じ問題関心を持つ同志との出会いなくしては語れません。以前から核廃棄物問題関連でお見掛けしていた稲垣さん。2017年の「核ごみプロセスをフェアに！」プロジェクトにお誘いし、岡山県や北海道などを共に取材しました。2018年度は理事の厳正な審査（という名の激励）により、「ASJ活動サポート基金」を使って私と稲垣さん含め5名で福井県へ赴き、住民運動の歴史や廃炉問題を学びました。そうした経験を経て、私自身「住民運動の歴史をアーカイブしたい」と思っていたところ、稲垣さんから映画制作の相談をいただき、「では一緒にやろう！」という流れで、今に至ります。10年取組んできたテーマで、仲間とともに新しい挑戦に踏み出せたのも、当時からずっと応援し続けてくれた代表・理事・会員のみなさんのおかげです。とはいっても問題は山積…このテーマで社会を変えていくのは本当に困難を伴いますが、これからも応援していただけると幸いです。

賛同案件/加盟団体

2019年度賛同案件一覧

日付	内容
5月17日	「エシカルバナナキャンペーン」賛同
5月24日	「H.I.S.パーム油発電反対」署名
6月10日	「Global People's Action in Yokosuka 横須賀石炭火力発電所計画地前」賛同
7月25日	共同声明「Fridays For Future 気候危機に対する日本の若者の運動を支持します～9月国連サミット前グローバル気候マーチに向けて～」賛同

2019年度ネットワーク加盟団体一覧

ネットワーク名/所属名	
グローバル気候マーチ/賛同団体	パワーシフトキャンペーン/運営団体
石炭火力を考える東京湾の会/賛同団体	Fair Finance Guide Japan/実行委員
「持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPO連絡会(SUSPON)」/加盟団体	Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)/協力団体
認定NPO法人振興会/会員	市民電力連絡会/会員
NGO非戦ネット/賛同団体	ドット・ジェイピー/会員
SDG s 市民社会ネットワーク/正会員	アースデイ東京実行委員会/実行委員
エシカルケータイキャンペーン実行委員会/賛同団体	消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク/幹事団体
日本NPOセンター/会員	eシフト/運営団体
グリーン連合/正会員	気候ネットワーク/会員

2019年度会計報告

2019年度は、前年度と比べ、赤字が27万円ほど減少し、約172万円の赤字決算となりました。主な要因として、収入面においては、会員年会費が約16万円、寄附金が約6万円、助成金が約43万円、事業収入が約5万円、それぞれ予算を下回りました。また、支出面においては、経常費用が約2万円、予算を上回りました。なお、収入面における助成金の受給額が、予算を大きく下回った原因は、以下の事由によるものです。

- (1) 新型コロナウイルスにより現地調査の報告会が中止になったため、予算より20万円ほど減少。
- (2) 2020年のFair Finance Guide Japanの運営から外れることを決定したことにより、スウェーデン国際開発協力庁(SIDA)からの助成金の受給対象ではなくなったため、予算より20万円減少。

貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金・預金	14,684,470	未払金	146,277
未収入金	1,771,460	預り金	25,265
商品	56,748	負債の部合計	171,542
未収金	10048		
		正味財産の部	
【固定資産】		【指定正味財産】	
(1)有形固定資産		前期繰越指定正味財産	0
工具器具備品	1	当期指定正味財産増減額	0
(2)投資その他の資産		【一般正味財産】	
敷金	0	前期繰越一般正味財産	18,076,148
		当期一般正味財産増減額	-1,724,963
		正味財産合計	16,351,185
資産の部合計	16,522,727	負債及び正味財産合計	16,522,727


監事監査報告書

監査の結果、2019年4月1日より2020年3月31日までの第6期事業年度における財務諸表及び活動報告は、同時点の特定非営利活動法人 A SEED JAPAN の財産及び収支並びに理事の業務執行の状況を適正に表示しているものと認めます。

以上

2020年6月21日

特定非営利活動法人 A SEED JAPAN

監事 矢口 拓也 

2019年度 活動計算書

(単位：円)

科 目	金	額
一般正味財産増減の部		
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	43,500	
準会員受取会費	12,000	
SPRING会員受取会費	487,000	542,500
2 受取寄附金		
スプリング	425,000	
その他受取寄附金	518,732	943,732
3 受取助成金等		
受取助成金振替額	4,513,810	4,513,810
4 事業収益		
(1)環境及び社会問題に関する情報収集・提供事業	46,766	
(2)環境及び社会問題に関する政策提言事業	461,180	507,946
5 その他収益		
受取利息	153	
雑収入	0	153
経常収益計		6,508,141
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	2,560,540	
人件費計	2,560,540	
(2)その他経費		
地代家賃	61,875	
備品消耗品費	20,480	
通信費	56,829	
発送費	57,560	
印刷製本費	103,010	
旅費交通費	1,252,730	
研究研修費	8,846	
会議費	10,920	
諸会費	77,000	
保険料	7,800	
減価償却費	32,469	
支払手数料	17,558	
謝金・業務委託費	530,567	
出店・設備レンタル費	396,570	
広告宣伝費	0	
雑費	0	
その他経費計	2,634,214	
事業費計		5,194,754
2 管理費		
(1)人件費		
給料手当	1,588,123	
法定福利費	341,616	
福利厚生費	0	
人件費計	1,929,739	
(2)その他経費		
地代家賃	658,125	
水道光熱費	72,000	
備品消耗品費	164,340	
通信費	8,398	
発送費	0	
印刷製本費	4,567	
旅費交通費	45,900	
研究研修費	12,500	
会議費	1,016	
会場費	1,200	
諸会費	14,321	
租税公課	1,200	
支払手数料	39,898	
謝金・業務委託費	79,099	
修繕費	0	
雑費	6,047	
その他経費計	1,108,611	
管理費計		3,038,350
経常費用計		8,233,104
当期一般正味財産増減額		-1,724,963
前期繰越一般正味財産額		18,076,148
次期繰越一般正味財産額		16,351,185
指定正味財産増減の部		
I 受取助成金	4,513,810	4,513,810
II 一般正味財産への振替額	-4,513,810	-4,513,810
当期指定正味財産増減額		0
前期繰越指定正味財産額		0
次期繰越指定正味財産額		0
次期繰越正味財産額		16,351,185

想いを行動に、行動を変革につなげるために。 A SEED JAPANでは、 活動メンバー・サポーターを募集しています！

私たち若者が未来から課せられた役目の重大さとは裏腹に、現在の日本社会で若者・学生の声はまだまだ小さく弱いものです。また、「課せられた役目」を達成するためには、当たり前前の仕組みを壊していかなければならないかもしれません。しかし、だからこそA SEED JAPANの様々なプロジェクトは、企画・運営ともボランティアメンバー自身の手で行われています。すべてのプロジェクトは「こうしたい」という小さな想いからはじまります。もちろん最初からうまくいくことばかりではなく、試行錯誤と失敗も繰り返しながら、たくさんの仲間が集い、ときには1,000人もの人々の心を揺さぶるものへも発展していきます。あなたもA SEED JAPANのボランティアスタッフとして参加しませんか。少しでも空いた時間を使って、あなたの持っている興味・知識・情報・技術を生かして一緒に活動しましょう。気軽に事務所に遊びに来てください。

	正会員	準会員	賛助会員
Root(一般)	¥5,500	¥5,000	
Tree(学生)	¥3,500	¥3,000	
Ground (賛助会員個人)			¥10,000
Ground (賛助会員団体)			¥30,000

会員になるには？

Webサイトから、もしくは事務局にお問い合わせください。不定期で活動説明会も開催しています。お気軽にお越しください！
オリエンテーションのご案内はこちらから！
<http://www.aseed.org/admission/>



銀行振り込みやイベントを通じてご入会の手続きができます。

■お振込み先口座

口座番号:00130-8-609558

加入者名:A SEED JAPAN

■ご依頼人情報をご記入ください。

住所氏名欄:ご住所、お名前(フリガナ)、電話番号、E-mailをご記入ください。

通信欄:A SEED JAPANのことをどこでお知りになったか、性別、生年月日(西暦)、ご職業、ご送金の内訳、領収書をご希望かをご記入ください。

サポーターになるには？

マンスリーサポートになる
月々500円からご入会いただけます。
下記のURLをご覧ください。事務局へお問い合わせください！

<http://www.aseed.org/donation/>
ご寄付を受け付けております。

団体概要

団体名：特定非営利活動法人A SEED JAPAN
設立：1991年9月（※法人格取得日 2014年4月1日）
代表：濱田恒太郎
会員総数：126名、マンスリーサポーター 8名（2020年3月末現在）

役員（2019年度）

<理事> 濱田恒太郎、石原遼平、西島香織、田川道子、三本裕子、江口健介
<監事> 矢口拓也

発行:特定非営利活動法人A SEED JAPAN
発行日:2021年7月27日
編集責任者:西島香織
編集:西島香織、露木佑亮
〒102-0082東京都千代田区一番町9-7一番町村上ビル6F
E-mail:info@aseed.org
TEL:03-5826-8737
FAX:03-3263-9463
URL: <http://www.aseed.org/>

